

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 石狩市地域活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
石狩市地域公共交通 活性化協議会	<p>運行系統名: 浜益南北方面 運行区間: 雄冬や柏木などの各戸から幹線交通に接続または浜益温泉や診療所などまで(予約制デマンド方式)</p> <p>運行系統名: 浜益東方面 運行区間: 浜益、柏木、川下、実田、御料地各戸から幹線交通に接続または浜益温泉や診療所などまで(予約制デマンド方式)</p> <p>運行系統名: 厚田方面 運行区間: 浜益区内各戸から北海道中央バス札厚線に接続(予約制デマンド方式)</p>	<p>地域間幹線系統(中央バス札厚線)の運行ダイヤに対応して、運行し、接続に努めた。</p> <p>地域公共交通網形成計画に基づき、乗り継ぎ拠点である道の駅にパンフレット等を備え置いたほか、中央バス車内において乗継アナウンスを行い、利用促進に向けたPRに努めた。</p>	<p>A 浜益南北方面の系統は実績運行回数が計画を上回った一方、浜益東方及び面厚田方面は下回り、実績輸送人員は目標を下回ったが、事業は適切に実施された。</p>	<p>B 【事業の目標】 年間利用者数(令和5年10月～令和6年9月) 目標: 1,527人 実績: 1,279人 運行を年々積み重ね、利用者は増加傾向であったが、今年度については利用実績が振るわなかった。</p>	<p>引き続き利用者ニーズの把握に努め、運行委託事業者と連携して利便性等の向上に向けた改善を図っていくとともに、さらなる利用者増に向けてより一層の周知を図る。 また、運行の安全対策を徹底し、利用者の安寧な移動環境が創出できるよう努める。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	石狩市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>石狩市は札幌市の北側に位置し、南北に長く日本海に面している。面積は721.86km²、人口は約58,000人である。北海道中央バス札幌浜益線は、浜益区の区間が不採算路線となり、平成28年3月31日に廃止となった。</p> <p>また、石狩市全体の高齢化率は34.0%（令和6年10月時点）であるが、とりわけ浜益区の高齢化率は57.2%（令和6年10月時点）と浜益区の高齢化が著しいことから、高齢社会における地域住民の生活交通の確保が重要である。</p> <p>このようなことから、事業採算性を意識しながら高齢者等交通弱者の「生活の足」を確保するための、利便性が高く、将来にわたって持続可能な公共交通体系を構築する必要がある。</p> <p>そのため、浜益区における高齢社会や住民ニーズに即し、かつバス交通に関する財政負担の軽減のため、浜益区内全域を網羅するとともに、地域間幹線系統（北海道中央バス・沿岸バス）との接続を目的とした、持続可能な地域旅客運送サービスを提供し、区民の生活利便性の向上を図ることを目的とする。</p>

事業実施の目的・必要性

石狩市は札幌市の北側に位置し、南北に長く日本海に面しており、面積は721.86k㎡、人口は約58,000人で、市全体の高齢化率は34.0%(令和6年10月時点)であるが、とりわけ浜益区の高齢化率は57.2%(令和6年10月時点)と極めて高く、生活交通の確保が重要であり、事業採算性を意識しながら、将来にわたり持続可能で利便性の高い公共交通体系を構築する必要がある。

そのため、住民ニーズに即し、かつバス交通に関する財政負担の軽減のため、浜益区内全域を網羅するとともに、地域間幹線系統(北海道中央バス・沿岸バス)との接続を目的とした、地域特性に応じた地域旅客運送サービスを提供し、市民の生活利便性の向上を図ることを目的とする。

地域公共交通の現況

- ・北海道中央バス株式会社 (市内19路線)
- ・沿岸バス株式会社 (市内1路線)
- ・浜益滝川間乗合自動車 (1路線)
(自家用有償運送)
- ・スクールバス (10路線) (混乗含む)
- ・タクシー会社2社

生活交通確保維持改善計画の目標

浜益厚田間乗合自動車運行事業 年間利用者数 1,279人
(令和5年10月から令和6年9月まで)

協議会開催状況

- 令和5年8月3日 令和5年度第2回協議会
 ・地域公共交通確保維持改善事業について
 令和5年12月27日 令和5年度第4回協議会
 ・地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について
 令和6年6月6日 令和5年度第1回協議会
 ・地域公共交通確保維持改善事業に係る計画認定申請について

令和6年度事業概要

浜益南北方面	浜益東方面	厚田方面
雄冬や柏木などの各戸～幹線交通または浜益温泉や診療所など運行(予約制デマンド方式)	浜益、柏木、川下、実田、御料地各戸～幹線交通または浜益温泉、診療所など運行(予約制デマンド方式)	浜益区内各戸～中央バス札厚線運行(予約制デマンド方式)

令和6年度事業の実施状況

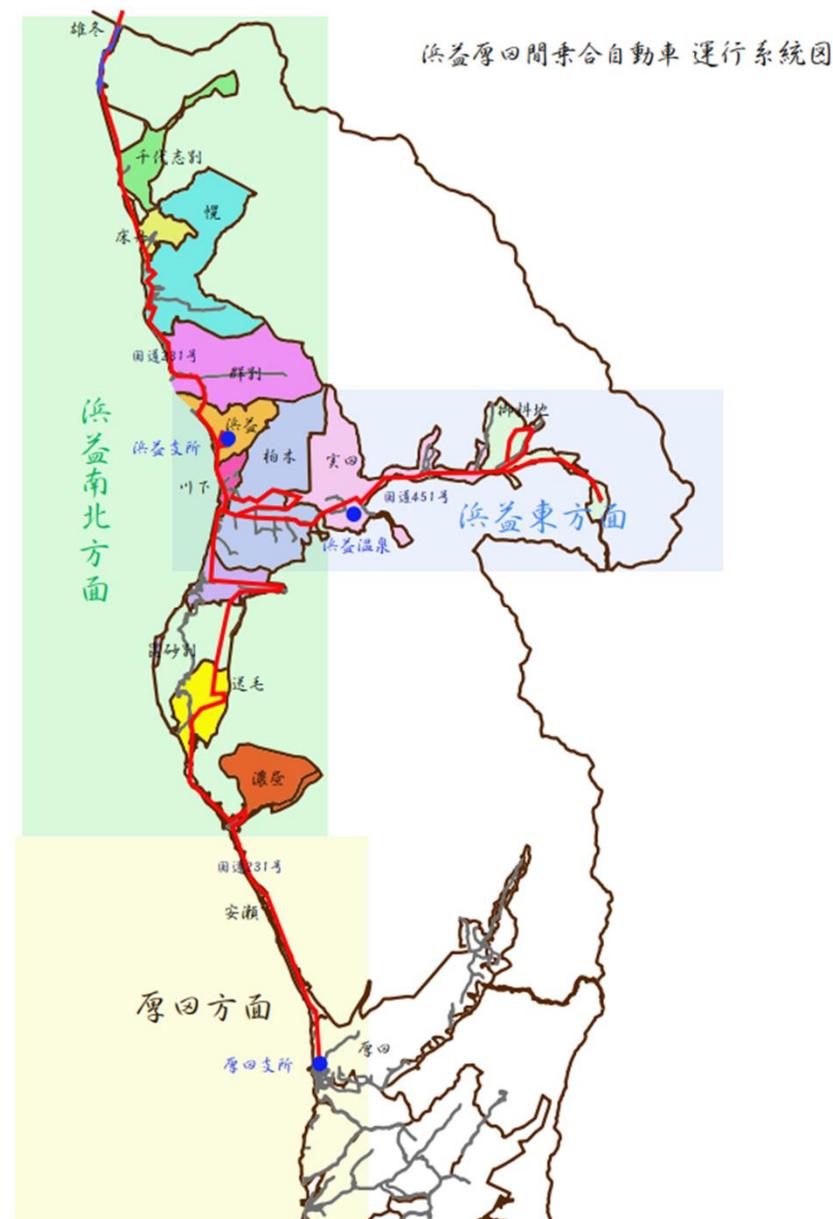
1) プロセス、創意工夫

利用促進を図るよう努めた。

【利用促進】

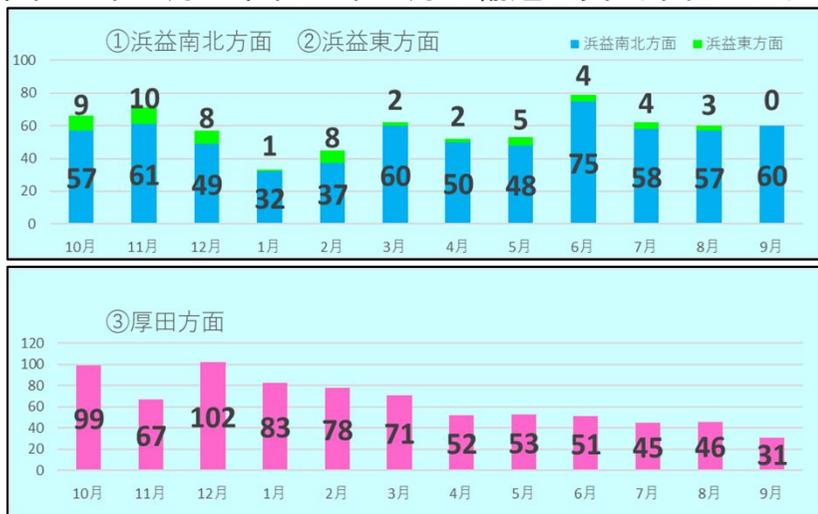
- ・ポスター及び名刺サイズの周知カードを継続して設置
- ・中央バス札厚線の車内において、デマンド交通の乗り継ぎアナウンスを実施

2) 運行系統

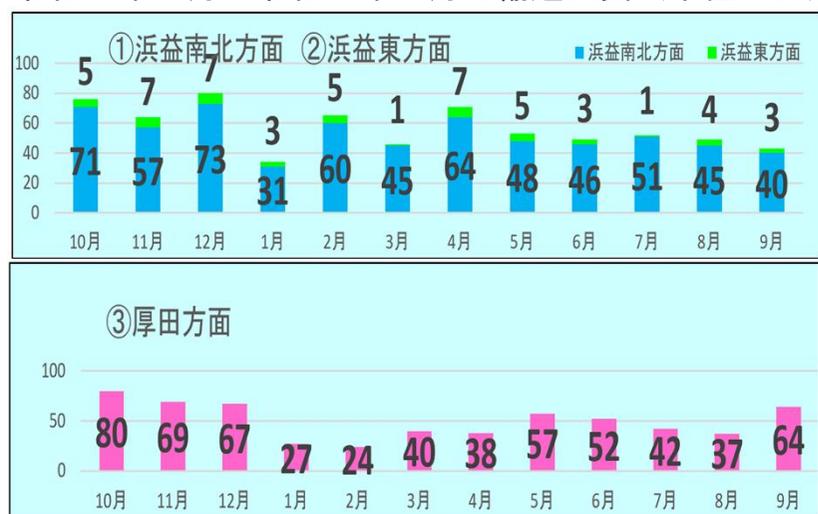


3) 利用実績

令和4年10月～令和5年9月の輸送人員（単位：人）



令和5年10月～令和6年9月の輸送人員（単位：人）



4) 収入実績

令和4年10月～令和5年9月の運送収入（単位：円）



令和5年10月～令和6年9月の運送収入（単位：円）



5) 事業実施の適切性

浜益南北方面の系統は実績運行回数が計画を上回った一方、浜益東方面及び厚田方面は下回ったが、事業は適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

引き続き利用者ニーズの把握に努め、運行委託事業者と連携して利便性等の向上に向けた改善を図っていくとともに、さらなる利用者増に向けてより一層の周知を図る。

また、運行の安全対策を徹底し、利用者の安寧な移動環境が創出できるよう努める。

6) 目標・効果達成状況

【事業の目標】

年間利用者数(令和5年10月～令和6年9月)

目標: 1,527人

実績: 1,279人

運行を年々積み重ね、利用者は増加傾向であったが、今年度については利用実績が振るわなかった。

8) 地方運輸局等における二次評価結果(案)

運輸局記載欄